

## ラクト・ジャパン乳製品情報12月号

2009/12/29

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記にて乳製品情報 12月号をお届け致しますので、ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

本年も当乳製品情報を1年間ご愛読頂きありがとうございました。

来年も多難をきわめる内外乳業界の状況を的確、迅速に情報として配信させて頂き度く、

執筆者一同がんばる所存ですので、引き続きのご愛読お願い申し上げます。

皆様、良いお年をお迎えください。

### < 目次 >

<b>脱脂粉乳・全脂粉乳情報</b>	「EU産粉乳の輸出価格下落」	… 2 - 3 頁
<b>バター情報</b>	「潮目を迎えたバター相場」	… 3 - 4 頁
<b>ホエイ情報</b>	「米国産は引き続き堅調。EU産はほぼ横這いで推移」	… 4 頁
<b>カゼイン情報</b>	「相場は引き続き堅調」	… 5 頁
<b>乳糖情報</b>	「2010年第1四半期価格 もう一段階の値上げ」	… 5 - 6 頁
<b>チーズ情報</b>	「オセアニア産チーズ・デンマーク産チーズ 2010年1-6月積み価格」	… 6 - 7 頁
	「伊ペコリーノ・ロマーノの健康効果？」	
	「ニュージーランドの10月チーズ輸出量」	
	「豪州のチーズ生産量減」	
	「英国チーズ輸出」	
	「CWT チェダーチーズ相場」	
<b>国内情報</b>	「年未年始で学乳がストップ、例年になく多い都府県余乳の行方は？」	… 8 - 9 頁
<b>今月のトピックス</b>		
<b>アムステルダム駐在員情報</b>	「EU、酪農家支援、最終的に3億ユーロに」	… 10 頁
	「FrieslandCampina、製造部門で大規模なリストラ」	
	「スイス Emmi 社、フランスとイタリアのチーズ市場で資本提携」	
<b>メルボルン駐在員情報</b>	「来年度砂糖相場増産、今年度小麦は下方修正」	… 11 - 13 頁
	「MGC、スポーツ栄養食品の開発強化」	
	「生乳生産量 過去14年で最低に(?)」	
	「豪州の地域別生乳生産量」	
	「豪州品目別生産状況」	
<b>上海駐在員情報</b>	「北京三元が、6.8億元を投資して乳製品工業区を建設」	… 13 頁

### 出典

## < 脱脂粉乳・全脂粉乳情報 >

### -EU 産粉乳の輸出価格下落-

8月から急激な上昇を続けた粉乳相場は、12月に入り落ち着き始めている。最大の要因はEU産粉乳が競争力のある価格で輸出市場に出回り始めた事である。アルジェリアの入札が予想より少ない数量での成約となった為、この入札を想定して削減前に申請していた助成金に余剰が出た。その助成金を利用して数量・納期限定で安値を出す輸出業者が出てきた。この助成金は2月末が船積み期限となっている。また米ドルに対してユーロ安に推移した事が更にEU産粉乳の輸出価格に優位性をもたらした。現在休暇時期で取引は殆ど行われていないが、助成金付きのEU産全粉、脱粉の価格は、オセアニア産比較、USD 300/MT以上安いものもある。オセアニア産脱粉の価格が急激に上昇した事から、米国産脱粉にも競争力が始まり、徐々に輸出量を伸ばしてきている事も市場緩和に貢献している。

### ~EU~

EUの生乳生産量は、殆どの国で非常に少ない時期であるが、徐々に増え始めている地域もある。多くの国が昨年対比少ない生乳生産状況であるのに対し、ドイツは現時点で2%増加している。年末の休暇シーズンは余乳が発生する事が多く、乳業メーカーはそれに対応する為の準備を整えている。余乳処理として一番生産されるのは脱脂粉乳・バターである。直近のアルジェリアの粉乳の入札結果について、正確な情報がなかなか公表されないが、落札された脱脂粉乳のほとんどがEU産品となり、全脂粉乳についてはEU産品と他産地品で落札された模様。米ドルに対するユーロ安、低調な需要、潤沢な供給量が輸出市場におけるEU産乳製品の価格競争力を強めている。秋口は国際市場であまり競争力のなかったEU産品は、ここにきて国際市場で競争力がついてきている。休暇時期という事もあり、引き合いは少ない。価格が軟調推移しており、在庫が潤沢にある事は周知の事実である事から、本格的な引き合いが始まるのは年明けになる見込み。

### ~オセアニア~

オセアニアの生乳生産はピークを過ぎ、例年通り減少している。NZの乳業関係者は今シーズンの生乳生産見通しを下方修正し、シーズン開始当初の予想である前年対比2.0-3.0%増加が、1.0-1.5%増加見通しとなった。12月のフォンテラ全粉オークションの結果は、平均落札価格USD 3,560/MT FASとなり前月から3.6%増加した。落札数量は25千トンである。前月に引き続き上昇したが、上昇率は11月比較少なくなった。1月の入札は価格が下がるという予想も多い。

豪州の10月の生乳生産量は前年同月比7.4%減少と発表された。ビクトリア州は9.8%減少、タスマニア州は5.3%減少となった。7月からの4か月の累計では豪州全体で、5.0%の減少となっている。11月の数字はまだ発表されていないが、関係者の中では10月同様、7.0%前後の減少が予想されている。ピーク時の乳量が予想より少なくなる事はほぼ確定し、予想より少ない集乳量を、最も需要が強く、利益率の高い乳製品製造にまわす傾向がさらに強まっている。計画対比不足している生乳を集める為に、乳業メーカーは苦勞している。在庫を補充する為に、取引業者は他産地の乳製品を手当している。日本向けのチーズ価格がUSD 4,000/MT後半の価格帯となり、オセアニアのサプライヤーは粉乳についてもUSD 4,000/MT前後の価格の販売を試みたが、この価格帯での粉乳販売は低調である模様。全粉でUSD 4,000/MT、脱粉でUSD 3,600/MTという価格がオセアニア産粉乳の現時点での天井になっている。

### ~今年の総括・今後の見通し~

2009年はUSD 2,000/MT台前半の相場が始まり、春先にUSD 2,000/MTを下回る価格も出てきたが、8月のフォンテラの入札結果が大幅に上昇した事をきっかけに急激に反転し、10月を過ぎると全粉でUSD 4,000/MT弱の相場となった。下落し過ぎた乳価が原因となった酪農家の生産意欲減退・生産量減、中国の全粉輸入量急増、インドによるAMFの調達、豪州の干ばつ、フォンテラの入札動向、EU輸出助成金削減、介入在庫放出時期の延期、等々様々な要因を背景に変動した粉乳相場であった。上述の通り、今月に入りEU産、米国産の粉乳がオセアニア産は比較、安値で出てきてくれた事から、輸出市場全般では上昇を続けてきた粉乳相場がやや軟調に転換した。ただし、オセアニア産品指向の需要者、用途の場合、状況は異なり、来年前半の供給は逼迫しており、早期の確保が必要であると思われる。来年の相場動向については、需要面では中国、インドの状況を注視する必要がある。中国には数十万トンの自国産の全粉が処分できずに在庫となっており、輸入品に対する規制等が仮に発動した場合、市況は大きく変化するだろう。供給面ではオセアニアの天候、EUの政策動向(助成金、介入在庫、為替他)、米国産の輸出量増加がキーポイントになる。

また今回相場が急激に上昇した主要因は需要者が一気に買い注文を入れたことであり、相場を安定させる為には価格動向でショートやロングポジションを取らず、定期的に安定的に買い注文を入れた方が良い。粉乳が USD 5,000/MT を超え、需要が大幅減となった苦い経験があるだけに、再度粉乳相場が USD 5,000/MT を超える可能性は極めて低いと思われる。豪州では全脂粉乳が

USD 3,000/MT 前半で販売できれば、酪農家に対し十分酪農運営が可能な乳代を支払う事が出来ると聞く。大きな乱高下なく、USD 3,000/MT 前後に相場が落ち着く事を願いたい。

(現在の粉乳取引価格)

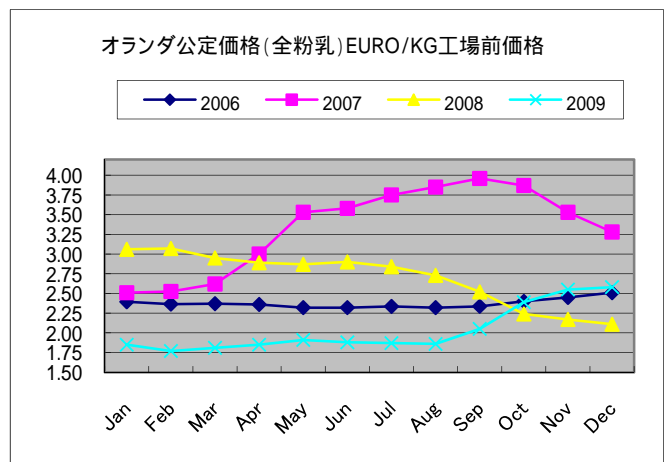
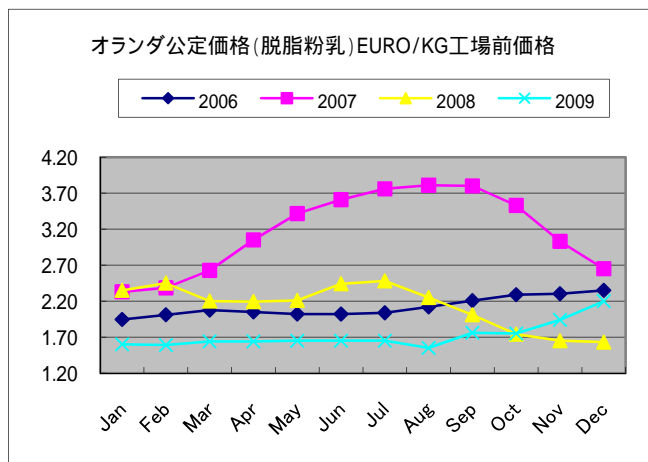
EU 産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,000 3,600 PMT CAF ASIAN PORT

EU 産全脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,400 4,000 PMT CAF ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,300 3,600 PMT CAF ASIAN PORT

オセアニア産全脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,700 4,000 PMT CAF ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,200 3,500 PMT CAF ASIAN PORT

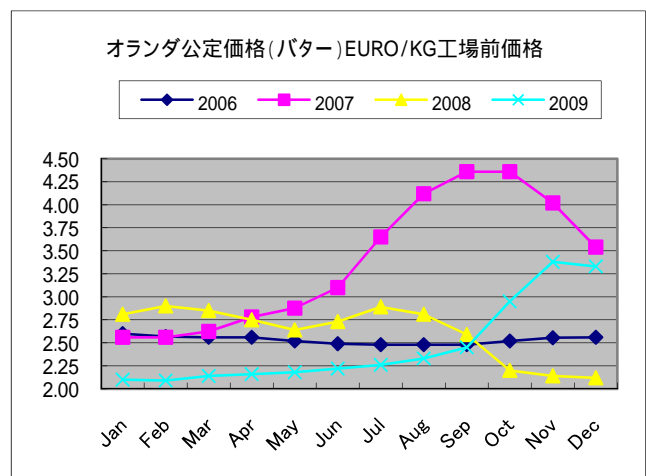


< 小島 >

## < バター情報 >

### - 潮目を迎えたバター相場 -

EU 委員会は今年度概観と来年の展望を発表。経済好転の兆しが見られ脱脂粉乳・バターの回復を期待、チーズも引き続き伸張、乳価も回復としている。EU の 1 - 9 月バター輸出量は昨年比 8.5% 増であった。また、10 月の脱脂粉乳・バター相場よりの計算上乳価は 28 ユーロセント/リットルとなるが、同月公表されている乳価は平均 26.7 ユーロセント、もう一段の乳価上昇があれば EU 酪農は持続可能としている。実際、EU では 11 - 12 月で多くのメーカーが 1~2 セントの乳価引き上げを行ったと見られる。現地バター取引価格は今年初めに比べれば 6 割アップ、8 月と比べても 4 割アップとなり、輸出価格に至っては助成金全額削減の影響も相まってボトム時に比べてほぼ 10 割アップ(2 倍)まで高騰した。低い乳価を背景とした生乳不足がクリーム不足を呼び、その状況の中でクリスマス需要を迎えたことが相場高騰の引き金となったと思われる。



特に 10 月から 11 月に掛けて猛烈な勢いで価格が上昇したが、粉乳類に比べ上昇すぎの感は否めず、12 月第二週からドイツを皮切りとして、バター価格は若干下がっている。クリスマス需要が一服し調整局面と思われるが、早いところでは 21 日頃から休暇モードに入っており、実際の取引は閑散としている。

オセアニアでは、日本向けチーズ契約が習慣的に 1 - 6 月積み、7 - 12 月積みに分けて年二回行われており、来年前半分の契約がクリスマス前に終了した。メーカー側は当初 5 割アップ近い大幅値上げを発表、その後若干の修正が入ったが、高値に嫌気をさしたユーザーは発注を控えたと見られ、オセアニア勢は期待通りの受注数を確保できなかった模様。この為、チーズ比較生産優先順位の低いバターに生乳が回ってくるチャンスが増えたと考える。但し、豪州は今年も天候不順に加え飼料高で 2009/10 年度(7 月～6 月)生乳生産は過去 14 年間で最低レベルの 8.9 百万トンと予想されている。今年度は NZ、豪州各メーカーとも例年通り乳価ステップアップを発表しているが、これが乳量回復につながるのは来年度と見られ、前半のインド特需の影響もあり、基本的には不足感を持ち越しそう。そのインド NDDDB(全国酪農開発局)は、生乳生産を 2012 年までに 180 百万トンに増産の目標を発表した。同国の現在の生産量は約 95 百万トン。この為に協同組合の組織化、生産性の向上、品質改善、インフラ整備も目標に挙げている。

米国でも生乳価格改善(上昇)がみられ、飼料価格も落ち着いているため、屠殺数にブレーキがかかり飼育頭数は微減となっている模様。気候変動法案、水質規制法案等が議会に提出され、今後は、環境問題がコスト要因と成る可能性が示唆されている。

#### 輸出助成金 (PER MT)

	(11.19～)	(11.5～)	(10.23～)	(6.4～)	(2.19～)	(2009.1.22～)	(2007.6.15～)
バター	EUR 0.0	EUR 145.0	EUR 377.0	EUR 650.0	EUR 550.0	EUR 450.0	EUR 0
バターオイル	EUR 0.0	EUR 175.6	EUR 456.5	EUR 787.0	EUR 666.0	EUR 544.9	EUR 0

2009.12

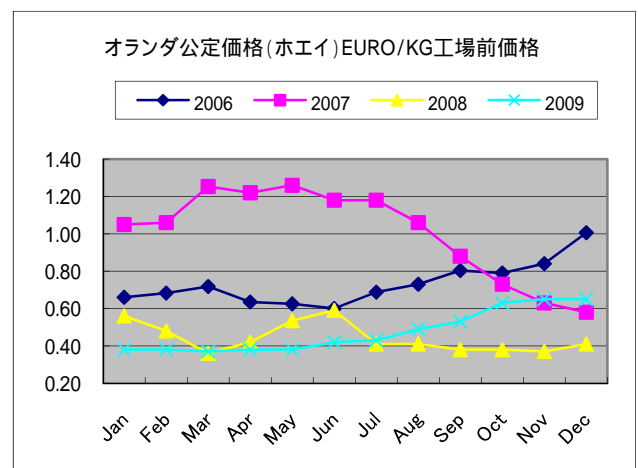
現在のバター取引価格	(換算レート EUR/USD1.50)
EU 産バター価格	USD4,500～USD5,200/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産バター価格	USD4,000～USD4,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター価格	USD3,400～USD3,800/MT CFR ASIAN PORTS

< 山淵 >

### < ホエイ情報 >

#### -米国産は引き続き堅調、EU 産はほぼ横這いで推移 -

EU 産ホエイパウダー相場は 11 月以降ほぼ横這いで推移している。今年の 4 月以降継続的に相場上昇が続いたが、それは一服したと見て良いだろう。ホエイパウダーに対する世界的な需要は引き続き堅調だが、為替レートが米ドル安ユーロ高に大きく振れた結果、EU 産比較一層の価格競争力を有する事ができた米国産に需要が集中した為、EU 産の相場上昇に歯止めがかかったものと思料される。一方米国では、チーズ生産が堅調な結果、ホエイパウダー及びホエイ派生品の生産は順調に行われているものの、需給は引き続きタイトで米国産ホエイパウダー相場は引き続き上昇している。米国の統計によれば、2009 年 1 月から 10 月までの同国のホエイパウダー生産量は約 40.7 万トンで前年同時期比 2.7%減、2009 年 10 月時点での製造者在庫は約 2 万トンで、軟調に相場が推移していた 2008 年 10 月と比べて 24%減となっている。



また、最新の米国輸出統計によれば、2009年1月から10月の間のホエイパウダー輸出量は16.6万トンで、前年同時期比1.7%と微減であった。主な輸出先は中国(38.3万トン)、日本(18.6万トン)、カナダ(17.8万トン)となっているが、中国向けの輸出量が前年比22%増と大きな伸びを示している。

WPC-34相場は引き続き堅調に推移している。もともとスポット的な引き合いへの対応力は限られていたが、最近特に物が出にくい状況となっており、既契約の船積みにも遅れが散見されており、一層タイト感が増している。向こう数カ月は相場強含みの展開となる可能性が高いと思われる。

### < カゼイン情報 >

#### - 相場は高止まり。需給は現時点では安定も追加で大口需要が出た場合は一気に締まる状況も？ -

カゼイン相場は引き続き堅調に推移している。オセアニア地域では生乳生産量が季節的ピークを過ぎているが、カゼインの生産は行われている模様。同地域における生乳生産量が当初の予測を下回っている為、カゼイン生産に乳が回らず需要に見合った量の生産できないのでは無いかとの観測もあったものの、今のところ十分な生乳が回っている模様。

EUにおいては、既契約の納品には引き続き既存の在庫が充てられている。在庫数量は昨年を下回っているが、既契約を満たすには十分な在庫があるとされている。

但し、オセアニア、EU双方に共通であるが、供給面はあくまで既存の契約及び予め想定されている需要に見合った数量に対して十分にあるのみとされている。従ってもし追加の大口需要が出てきた場合は、需給バランスの崩れに繋がりがかねない。パイヤーの間でもこの状況は知られており、今後の需給を皆注意深く見守っている模様。

< 池田 >

### < 乳糖情報 >

#### - 2010年第1四半期価格 もう一段階の値上げ -

##### < 欧州 >

2010年第1四半期の価格が出揃った中、価格はもう一段の値上げとなった。需要面では2009年第2四半期までの価格低迷を背景に、世界各国で乳糖回帰が進んでいること、また、欧州・オセアニア・米国における脱脂粉乳・全脂粉乳の蛋白値調整用途、中国の育児粉乳用途、東南アジアの一般食品用途での需要が底堅く顕在している。供給面では、メーカーによって生乳や乳糖の原料となるホエイの供給制限も出てきており、乳糖生産量において限定的な状態が続いている。上記背景から、2010年第1四半期の価格交渉ではメーカーによっては玉の確保が精一杯で、価格については数回の交渉の結果、大筋メーカー側のオファー価格を受けざるを得ない状況となっている。ここへきて、多くのメーカーでタイト感が更に増してきている様子であり、引き続き需給バランス・玉の確保には注視していく必要がある。

輸入国別乳糖輸入量：10月時点での累計(単位:トン)			
	2008	2009	増減率(%)
オランダ	8,282	8,127	- 2
フランス	744	564	- 24
ドイツ	7938	7,432	- 6
イタリア	0	96	100
リトアニア	0	0	-
カナダ	1,830	2,768	51.3
米国	28,397	29,678	5
アルゼンチン	60	25	- 58.3
豪州	416	167	- 60
ニュージーランド	3,562	2,979	- 16
イスラエル	214	440	106
その他	179	88	- 51
合計	51,622	52,364	1

##### < 米国 >

米国の乳糖相場は依然堅調推移している。一昨年の相場高騰の影響により、世界各国における需要が減少し、一部の乳糖メーカーは工場の稼働率を落とす動き(生産調整)が見られていたが、ここへきて、中国の育児粉乳用途の需要・東南アジアからの需要も高まっていることで、工場の稼働率を戻す動きが進んでいる。また、直近ではNZや豪州勢が乳糖の原料となるチーズ・ホエイ向けの生乳を、全脂粉乳や脱脂粉乳へ生産シフトする動きを見せており、こうした動きはNZや豪州での乳糖生産量の減少、更には、全脂粉乳や脱脂粉乳の蛋白値調整用途での乳糖需要を高めることにも繋がっている。

米国における 2009 年 10 月乳糖生産量・在庫量は下記の通り。

乳糖生産量	29,075 トン	前年比 6.7%増	前月比 8.7%増
月末在庫	24,494 トン	前年比 43.5 減	前月比 1.4%増

メーカー在庫量は米国・欧州ともに依然ショート気味、若しくは適正レベルといった状態である。本年第3四半期以降、相場は堅調に推移しているが、乳糖とデキストリン・マルトースなど代替品との価格差が大きく開いていないことから、今のところ再度代替品へ置き換えるといったエンドユーザーの動きは見られていない。上述の通り、供給に対して需要過多な状態が続いていることから、引き続き需給バランス・玉の確保には注視していきたい。

< 松下 >

## < チーズ情報 >

### **-オセアニア産チーズ・デンマーク産チーズ 2010 年 1-6 月積み価格 -**

11月号で速報したオセアニア産チーズおよびデンマーク産チーズ 2010 年 1-6 月積み価格が 12 月初旬に決着した。オセアニア産チーズにおいては当初提示された USD5,000/MT を挟む水準から若干の調整はあったものの、大幅な下落はなかった。

オセアニア産チーズが約 50% 値上がりしたのに対し、デンマーク産チーズにおいては提示当初の通り 2009 年 7-12 月積み比較約 30% 上昇の価格

で決着した。大幅な下落を続けていたデンマーク産チーズの対日輸出量に 歯止めを掛け、回復を狙うデンマークの政策的判断が窺える。

### **-伊ペコリーノ・ロマーノの健康効果？-**

伊 Sassari 大学の Anna Nudda 博士は 2003 年からの 6 年間の研究の結果、ペコリーノ・ロマーノは動脈硬化の抑制や皮膚、乳腺、胃における腫瘍の成長を抑制し、ガンを抑制する効果があると発表、さらに肥満や糖尿病の抑制、筋組織に対しても効果があるとした。

ペコリーノ・ロマーノは共役リノール酸が豊富で牛乳の約 3~5 倍の量含まれており、同博士の試験は 90g のペコリーノ・ロマーノの摂取を 3 週間継続し BMI 値と血中コレステロール値を測るといったものであったが、試験後両値において減少がみられた。しかしながら、同試験を 45g で試した場合は、効果は見られなかったようである。

### **-ニュージーランドの 10 月チーズ輸出量-**

同国通関統計によると、2009 年 10 月のチーズ輸出量は 2008 年同月比 13.5% 減少で 16,222 トンであった。

最も減少幅が大きかった向け先は日本で 35% の減少で 3617 トンであった。

一方、対ヨーロッパは大幅増で、英国は 27% 上昇し 1891 トン、オランダは 94% 上昇で 896 トン、ベルギーは 62% 上昇で 780 トンであった。

### **-豪州のチーズ生産量減 -**

豪州のチーズ生産が減少している。10 月単月のみを見ると、1.6% の増加で 35,099 トンあるが、今期(2009 年 7 月開始)の 7 月から 10 月までの累計は 110,459 トンで 1.3% の減少となっている。

チェダーにおいては 8.2% 減で 19,299 トン、生産量は毎月減少している状況で、7 月から 10 月までの累計は 55,281 トンに留まり、前年同期比の 15.3% 減であった。

フレッシュチーズ(クリームチーズ等)においては、10 月の生産量は前年同月比 4.6% 減少の 6076 トン、カビチーズ(青カビ、白カビ)は 8.4% 減少で 677 トン、スイスタイプは 12.9% 減少で 1315 トンであった。

一方、ハードチーズ(パルメザンタイプ)においては、10 月単月は前年同月比で生産量が 77.2% 増の 1455 トンであったが、7 月から 10 月までの累計生産量は 8% の減少であった。

今期の始まりである 7 月から 9 月までは長雨および冷涼な気候、一転 11 月は 30 を超える猛暑と、天候に恵まれない月が続いた影響が大きいと思われる。

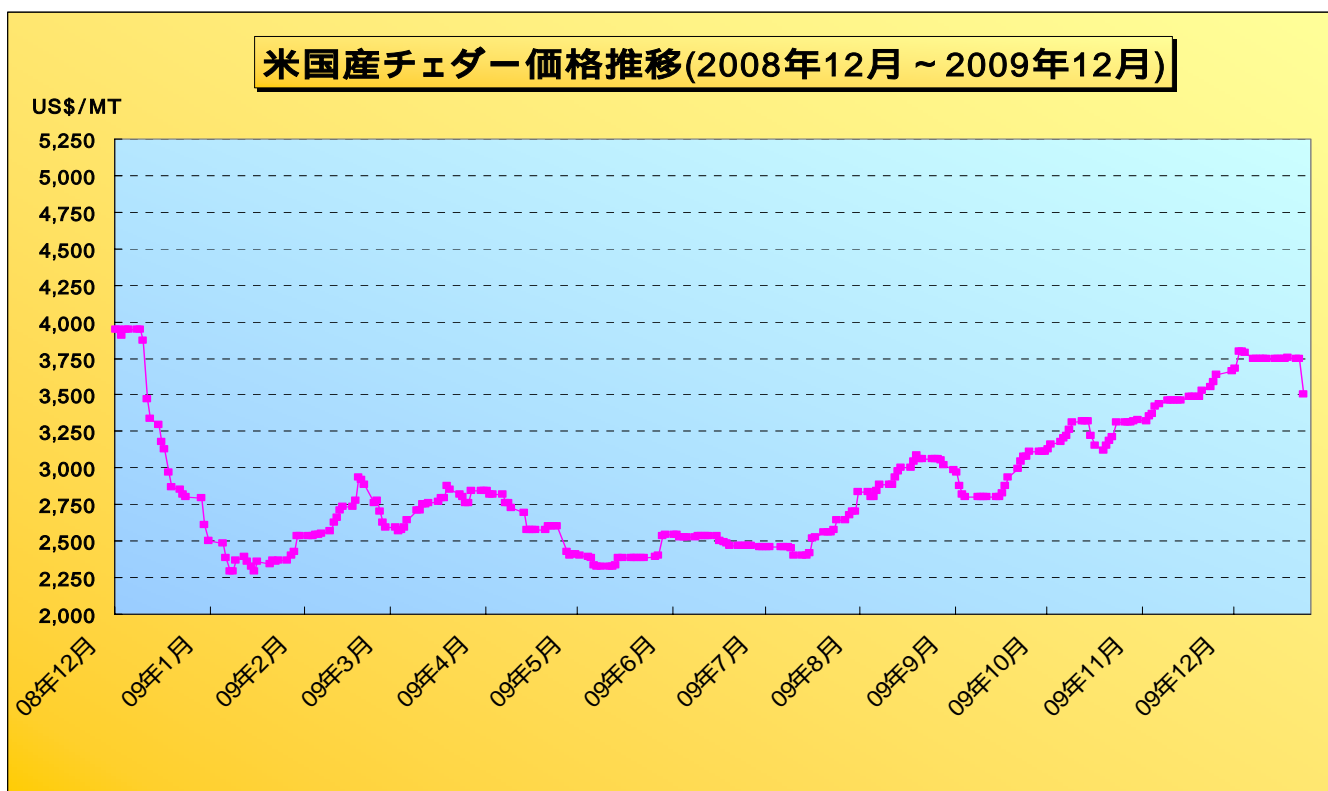
### -英国チーズ輸出 -

英国の対EU圏2009年1-8月の「フレッシュチーズ(主としてモザレラ)」の輸出量はポンド安を受け、2008年同期比で20%上昇した。

中でも数量としては少ないが、ドイツ、フランス、ベルギー、イタリア向けは大幅な上昇率であった。ドイツは76%増で3500トン、フランスは23%増で3150トン、ベルギーは70%増で1950トン、イタリアは32%増で1777トンであった。対アイルランドにおいては20%増で8320トンであった。

英国のフレッシュチーズ輸出量は年々下降していたが、ポンド安を受け一時的に引き合いが上昇した様相が窺える。

### -CME チェダーチーズ相場 -



(工場渡し価格)

12月はUSD3,750/MTを挟んで非常に小幅な値動きであったが、12月23日に急落しUSD3,550/MTとなった。現地はクリスマス休暇に入り、それ以降の値動きはないと思われるが、クリスマス前需要が一服し、それを受けて値下がりしたと思われる。

### -CWT 輸出助成プログラム-

12月もCWTの輸出助成プログラムによる成約は行われていない。

< 斉藤 >

## < 国内情報 >

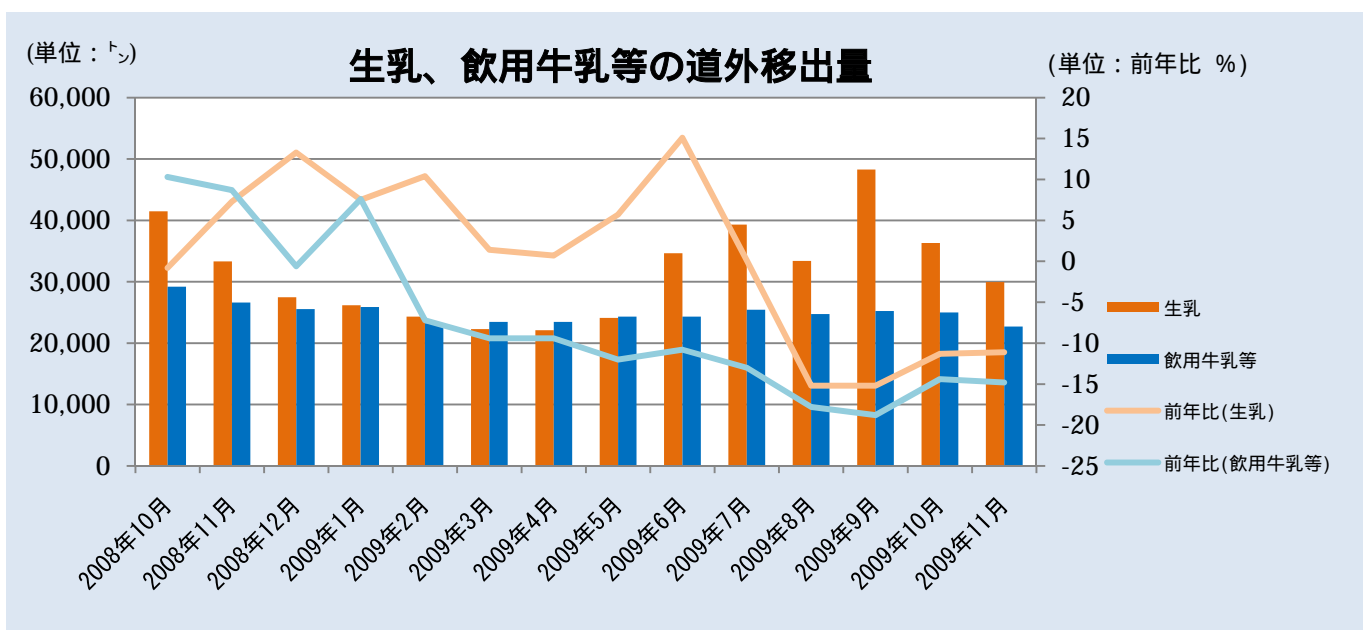
### -年末年始で学乳がストップ、例年になく多い都府県余乳の行方は？-

#### =生乳・牛乳=

11月の全国生乳生産量は625,726トン(前年比0.4%減)となり、2ヶ月連続での減産となった。北海道の生乳生産量は311,563トン(前年比0.5%増)となった。

牛乳生産量は258,812トン(前年比9.9%減)、加工乳・成分調整牛乳の生産量は53,281トン(前年比49.7%増)となった。

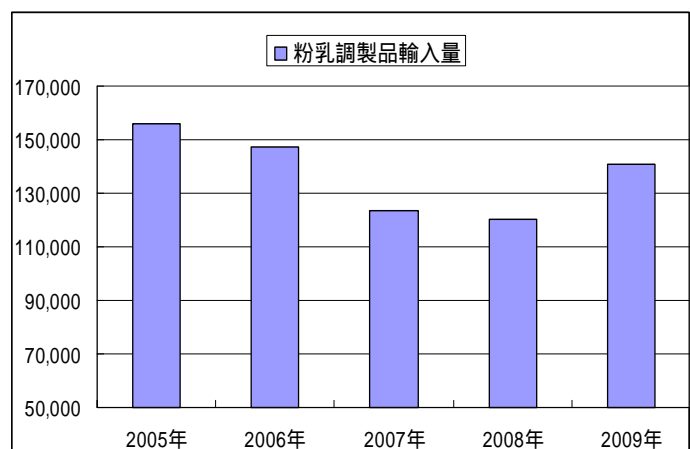
11月の北海道から都府県への生乳、飲用牛乳等の移出量は合計で前年比12.2%減となった。学校給食牛乳がストップする年末年始を控え、処理しきれない余乳が少なくとも3千トン以上北海道へ逆送される見込みが強いようだ。飲用需要が大きく落ち込み、ますます加工向け乳量の増加、処理不可能乳が発生するという見方もある。



#### =粉乳調製品=

2009年10月の粉乳調製品(乳成分30%未満製品のみ)の輸入量が財務省より発表された。10月は12,608トンと前年比17.3%増となり、今年2ヶ月を残し既に前年度比90%の輸入量に達し、このまま推移すれば2009年は昨年、一昨年の輸入量を大きく上回る見込み。

12月に入ってから国際砂糖相場の急騰、国内粉乳在庫の増加という国内外の動きの中、2010年の調製品輸入量の推移に注目したい。



2009年は推移値

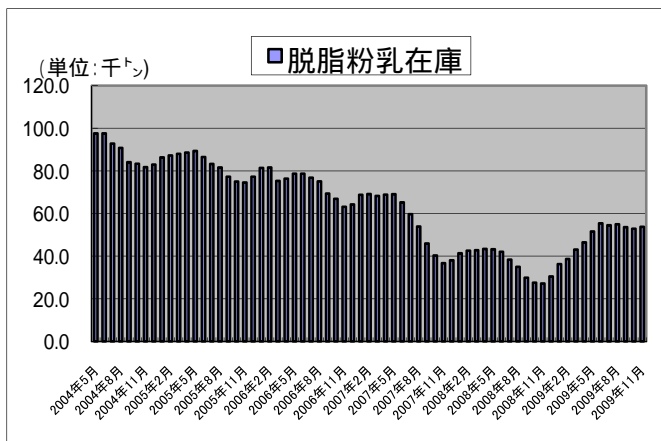
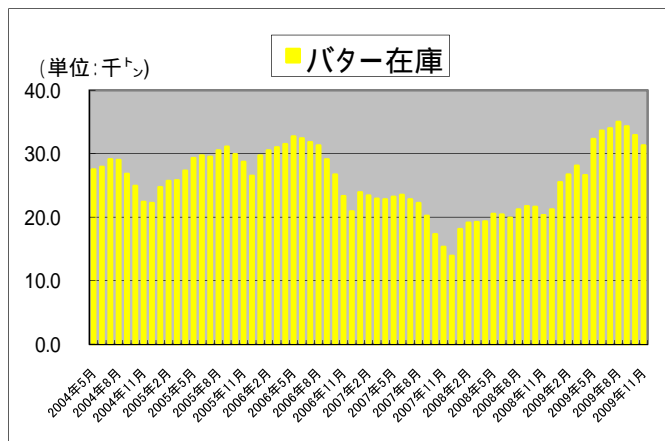
## =バター=

11月のバター生産量は5,601トン(前年比26.4%)となった。11月末在庫は31,334トンとなり、前月末に比べ約1,600トン減となったが、依然前年比では54.7%増と在庫の重たさを感じさせられる。

## =脱脂粉乳=

11月の脱脂粉乳生産量は12,449トン(前年比13.3%増)となった。11月末在庫は53,836トンとなり前月末に比べ約916トン増となった。逼迫していた昨年の約2倍の在庫水準となった。

バターは4ヶ月連続の在庫減少、脱脂粉乳は3ヶ月ぶりの在庫増加という結果となったが、クリスマス需要を終え、今後は更なる在庫の積み増しが予想される。



生乳生産量(21年度11月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
平成20年度	625	345	31	273	6.6
前年比	99.7%	95.1%	95.4%	106.3%	97.0%

平成21年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	22,004	108.1%	16,504	75.0%	33,600	159.2%	4.8
第2四半期	18,349	131.5%	17,649	88.2%	34,300	153.1%	4.9
第3四半期	16,500	108.7%	19,800	90.0%	31,000	137.8%	4.4
第4四半期	22,000	98.8%	15,000	71.4%	38,000	135.2%	5.4
合計	78,853	109.9%	69,953	82.3%	37,000	131.7%	5.2

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

平成21年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	43,701	102.7%	31,401	72.9%	55,400	131.6%	4.3
第2四半期	37,125	122.5%	38,925	91.5%	53,600	179.3%	4.3
第3四半期	38,000	102.3%	39,600	108.3%	52,000	170.5%	4.2
第4四半期	46,000	101.6%	46,000	100.0%	59,000	136.9%	4.8
合計	164,826	106.1%	155,926	92.7%	59,000	136.9%	4.8

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

# 今月のトピックス

## 海外情報

### アムステルダム駐在員情報

#### **-EU、酪農家支援、最終的に3億ユーロに-**

EU加盟国は、乳価低迷により困窮する酪農家への支援を目的とした緊急援助として最終的に3億ユーロの拠出を決定し、加盟各国への配分を行った。援助額は生乳生産枠の量に応じて各国に配分され、最大の配分額はドイツで61百万ユーロ、次いでフランス51百万ユーロ、英国29百万ユーロ、オランダ24百万ユーロ、イタリア23百万ユーロと続く。援助額に関しては、当初、EU委員会としては2億8000万ユーロとしていたが、ドイツ、フランスを中心とした20数カ国による強い働きかけにより、最終的に同国らが元々要求していた3億ユーロで決着した。これは、大規模デモなどを通じた各国酪農家からの政治的圧力が大きな背景となっている。

援助金に関しては、資金難にあえぐ酪農家への緊急対策として2010年6月までに支給されることになる。

#### **-FrieslandCampina、製造部門で大規模なリストラ-**

オランダの大手農系乳業会社 FrieslandCampina 社は合併後初めて、工場の閉鎖を含む製造部門のリストラ計画を発表した。同社では、同発表の数日前にゴーダチーズを製造する Bleskensgraaf 工場のオランダ小規模酪農協 DeltaDairy への売却を完了し、EU委員会から提示されていた合併条件を全て履行し終わったばかり。

今回の製造部門のリストラは規模の拡大と効率化によるコスト削減が主な目的で、今年の乳製品市場の低迷により収益が減少していることも背景にある。人員の削減は約620人にも及ぶ。同社では今回のリストラ計画では、工場の集約化に伴い、大規模投資を計画しており、短期的な効果ではなく、中長期的な収益効果に期待している。

具体的なリストラの中身については、フレッシュ乳製品製造部門では、ヨーグルトやデザートを製造するドイツの Elsterwerda 工場、UHT牛乳を製造するドイツの Kalkar 工場を閉鎖、それぞれドイツ国内の他工場に製造を移転する。また、オランダの Leewarden 工場ではコーヒークリーマーの製造ラインを閉鎖、製造をベルギーの Bornem 工場へ移転する。

チーズ製造部門では Drachten、Tilburg および Dronrijp の3つのチーズ工場を閉鎖、Leerdam や Wolvega 工場へ移転する。また、乳脂肪部門ではバターオイルやクリームを製造する Klerken 工場を2011年に閉鎖、同製造を Noordwijk や Lochem 工場に移転する。

なお、Dronrijp のホエイ製品工場はそのまま維持する方針。

#### **-スイス Emmi 社、フランスとイタリアのチーズ市場で資本提携-**

スイスの大手乳業会社 Emmi 社はフランスのチーズ加工会社の Diprola 社及びイタリアのフレッシュチーズメーカー Venchiaredo 社への資本参加による業務提携を決めた。同社では2014年までの中期目標の中で、スイス国外での販売を現在の3分の1以下から半分以上に引き上げることとしており、今回の資本参加も国外市場の強化が狙い。Diprola 社はチーズのカットや包装加工を得意とする会社で、資本参加は25%。フランス市場での自社製品の配送面の強化及びフランスや周辺国での Diprola 製品のテコ入れを計画している。また、北イタリアでは Venchiaredo 社と資本提携を行い、Venchiaredo ブランドのチーズを Emmi 社が販売することで、商品アイテム及び販売量を拡大し、イタリア市場での競争力強化につなげたい考え。

< 松永 >

# メルボルン駐在員情報

## **-来年度砂糖増産、今年度小麦は下方修正 -**

来年度の豪州産砂糖は価格上昇を背景に増産が見込まれる一方で、今年度産小麦は最近の高温の影響で従来の作柄予想を下回りそうだ。11月28日付シドニー・モーニング・ヘラルドが伝えた。コモンウェルス銀の調査によると、2010/11年度産砂糖の生産量は前年度比6.5%増の約490万トンとなる見通し。このうち輸出は約360万トンという。

砂糖は、気象条件が悪化したブラジルやインドで減産となったため世界的に供給が縮小。価格は1年前と比較して89%上昇しており、豪生産者は生産規模の拡大を図る見通しだ。

一方、ナショナル・オーストラリア銀(NAB)農業ビジネス部門のエコノミストであるドラム氏は、今年度産豪小麦の生産量は前年度比2%減の2,100万トンにとどまる可能性があると言及した。同銀の昨月の予想は2,300万トン、豪農業資源経済局(ABARE)の9月の予想は2,270万トンだった。同氏によると、9月の霜害がニューサウスウェールズ州南部・中部の生産に被害をもたらしたほか、熱波の影響によりビクトリア州と南オーストラリア州で収穫率が低下していることが要因だという。

## **-MGC、スポーツ栄養食品の開発強化 -**

MGC(マレーゴールドバン)社は今後、付加価値の高いスポーツ栄養食品の開発を強化する方針だ。11月15日付ウィークリー・タイムズが伝えた。オルーク社長は先月開催した年次総会で、プロテインの「アセンド」や栄養補助食品「プロフォーム」などのブランドが非常に高い成長率を示したと説明。今後もよりこれらに力を注ぐ戦略を示した。

これらの製品は、2002年に設立した子会社のMGニュートリショナルズが担当する。同社のホブマン社長は、アセンドがオーストラリアン・フットボール・リーグ(AFL)のホーソーン・フットボール・クラブやナショナル・バスケットボール・リーグ(NBL)のサウス・ドラゴンズ、五輪マラソンのリサ・ウエートマン氏などを含む多くのスポーツ選手に用いられていると説明。

MGニュートリショナルズはまた、VIC州一次産業省と協力し、骨粗しょう症や糖尿病などの病気の影響を軽減する牛乳の活性成分RIPTACの開発を進めているという。

## **-84年ぶりの11月の猛暑 -**

11月に入り、ビクトリア州では、異例の30以上の高気温が続いた。気象庁のディーン・スチュワート主任気象予報士は、「11月に30以上の高温が4日間も続いたのは、1925年以来」とコメント。また、過去最高記録は、1896年の6日間だという。11月9日には、ビクトリア州北部で37度を記録した。

## **-生乳生産量 過去14年で最低に(?) -**

12月16日NABアグリビジネスレポートによると、豪州の2009/10年度の集乳量は、年度スタートの最初の4か月で5%下落したことを受け、過去14年で最も低い89億リットルとなる見込みと発表した。

乳製品のマーケット価格が上昇しているにもかかわらず、豪ドル高が利益を抑制したことや、2008/0年度から続く干ばつと飼料の高値が乳量を圧迫した。降雨、灌漑用水の割当量の増加、そして飼料用穀物の価格の低下などが、酪農家に「若干の安心」を与え、さらに今年度2009/10年度乳価は、少しずつ改善しており、生産コストの低下とあわせ、酪農産業の収益の改善につながるであろうとNABはコメントした。このことにより、豪州の乳量の見込みは中期的に見て安定すると思われると予測されている。

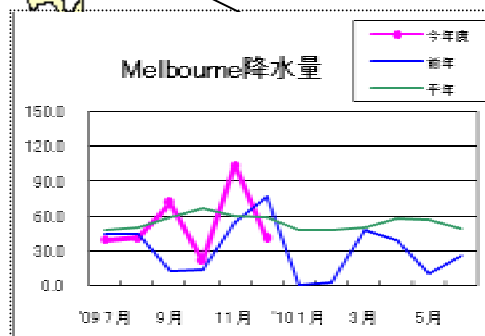
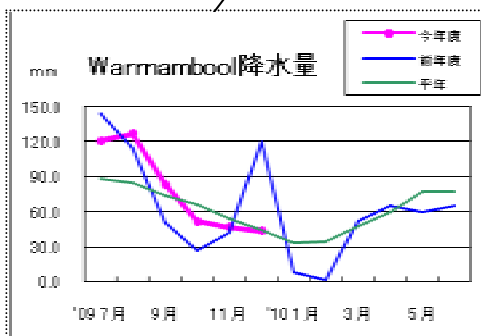
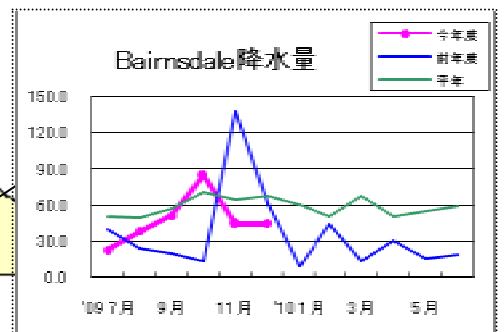
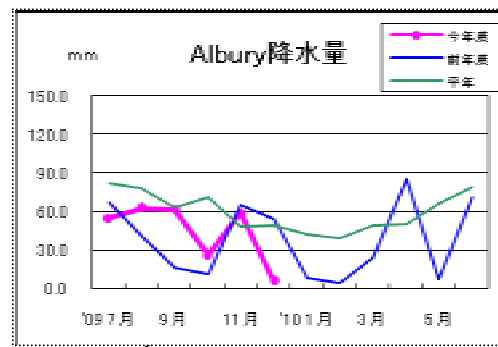
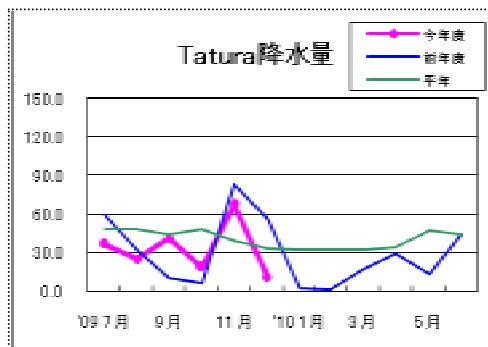
11月のビクトリア州の主な町の降雨量 (mm)

	11月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	67.2	82.8	39.0	+72.3%
Warrnambool (西部)	47.0	41.8	54.8	-14.2%
Bairnsdale (東部)	44.0	137.2	64.4	-31.7%
Albury (北東部)	58.8	64.6	47.5	+23.8%
Melbourne	103.6	54.5	59.5	+74.1%

12月に入ってからビクトリア州の降雨量は、22日の時点で以下の通り

	12月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	10.8	55.6	32.9	--
Warrnambool (西部)	43.8	120.4	44.4	--
Bairnsdale (東部)	44.4	60.8	67.7	--
Albury (北東部)	5.2	54.0	48.7	--
Melbourne	40.2	76.8	59.0	--

グラフは12月22日までの降雨量



- ニュージーランドの主な町の降雨量 11 月 と 累計 (mm)

	11 月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	36.8	23.9	97.6	-62.3%
Taranaki (北島)	125.8	104.8	107.8	+16.7%
North Canterbury (南島)	25.2	10.4	45.0	-44.0%
Southland (南島)	106.8	112.7	93.2	+14.6%

**生乳生産量** -

単位: 百万リットル

	10 月の生乳生産量(前年同月比)	'08 7 月 ~ 累計(前年同時期比)
NSW	102.2 (±0.0%)	385.3 (+3.3%)
Victoria	682.9 (-9.8%)	2,162.7 (-7.3%)
Queensland	48.6 (+2.1%)	187.6 (+6.8%)
South Australia	62.2 (-5.1%)	208.9 (-2.8%)
Western Australia	35.0 (-1.7%)	119.2 (-1.8%)
Tasmania	87.2 (-5.3%)	206.0 (-7.3%)
<b>Australia</b>	<b>1,018.0 (-7.4%)</b>	<b>3,269.9 (-5.0%)</b>

**ビクトリア州の地域別生産量** -

単位: 千リットル

	10 月の生乳生産量(前年同月比)	'08 7 月 ~ 累計(前年同時期比)
東 部	249,157 (-9.3%)	738,299 (-6.4%)
北 部	189,386 (-13.2%)	576,250 (-12.1%)
西 部	244,336 (-7.4%)	848,193 (-4.6%)
<b>ビクトリア州全体</b>	<b>682,878 (-9.8%)</b>	<b>2,162,742 (-7.3%)</b>

- **豪州品目別生産状況** -

単位: トン

	10 月 (前年同月比)	累計 (前年同時期比)
バター	10,121.8 (-20.9%)	27,934.4 (-14.8%)
バターオイル	1,637.4 (-41.8%)	7,540.3 (-14.0%)
CHEDDAR	19,299.1 (-8.2%)	55,280.6 (-15.3%)
その他チーズ	15,799.7 (+16.9%)	55,179.0 (+18.2%)
脱脂粉乳	22,779.4 (-26.8%)	74,110.9 (-13.0%)
全粉乳	16,319.4 (-10.6%)	47,014.7 (-16.2%)
ホエイ、WPC	9,554.9 (+10.9%)	28,141.3 (+1.0%)

< 渡瀬 >

## 中国情報

**-北京三元が、6.8 億元を投資して乳製品工業区を建設-**

メラミン問題を起こした三鹿を買収して、乳製品事業拡大を図る三元は、6.8 億元(約 88 億円)の投資を行い、乳製品工業区(工場)を建設すると報告した。

背景には、現在三元が所有している北京工場は、1 日 800 トンの生乳処理が可能であるがヨーグルト製品の販売好調により、既にフル稼働状態であることが揚げられる。今回の工業区処理能力は、1 日 1200 トンとなるが、全ては、北京市場のみに提供される。工業区は、2011 年完成を目指す。

< 西村 >

作成・問合せ先: 株式会社 ラクト・ジャパン

営業第一本部

乳原料第一チーム sales-1@lactojapan.com

乳原料第二チーム sales-1@lactojapan.com

乳原料第三チーム sales-1@lactojapan.com

営業第二本部

加工食材チーム sales-2@lactojapan.com

営業第三本部

チーズチーム sales-3@lactojapan.com

出典: AGRA EUROPE 各誌、  
Dairy Industry Newsletter  
農畜産業振興事業団“畜産の情報”  
AMS Dairy Market News  
日刊酪農乳業速報